

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201054		
法人名	有限会社 量石介護センター		
事業所名	グループホーム親孝行 ユニット名Y棟		
所在地	宮城県石巻市須江字沢尻55番地		
自己評価作成日	令和4年11月	21日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和4年12月	22日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が健康で安心して過ごせるように日々体調観察を行い、変化があるときは主治医に相談し指示を仰ぎ対応しています。</p> <p>コロナ感染拡大防止のため例年行われていた地域の小中学校との交流は自粛しているが今年はホームの畑を保育園に使用して頂き園児たちがサツマイモを育ててくれました。また毎月季節ごとの行事を行い利用者様に楽しんでいただけるよう努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは石巻港インターから5分ほどの須江工業団地に通じる街道にあり、周辺には大型食料加工工場や河南中央公園等が点在する田園地帯にある。ユニットはY棟(Yellow)B棟(Blue)でカーテンの色で識別している。目標達成に掲げた「きつき」の実践は、日々の観察で思いを汲み取り、職員間で情報を共有し個々にあった対応を実践に繋げている。近くに母体である法人があり、観光業を通じて地域住民との交流がある。散歩や外出の際挨拶を交わし地域との繋がりを大切にしている。入居者は毎月の行事で季節を感じ、日々の生活行う体操やゲーム、おしゃべりを楽しんでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム親孝行)「ユニット名 Y棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目標に「きつき」掲げ、事業所理念をリビングや玄関に掲示し常に目の届くようにし皆が実践できるようにしています	経営理念や地域理念を基に、ユニット目標「きつき」があり会議で継続とした。玄関やリビング、ユニットに掲示している。日々のケアの中で状況変化に早めに気付き、職員間で共有し個々にあった対応をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは地域のお祭りや奉仕活動などの交流があったがはコロナ感染予防の為中止でした。今年は保育園へホームの畑を使用してもらい園児たちがさつま芋を作りました	区長が毎月石巻市報を持参してくれる。その際に町内の祭りや草刈りが中止になった等の情報を得ている。さつま芋の成長を見に来た保育園児と手を振って挨拶をし交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで参加していた地域高齢者の集まりはコロナ感染予防の為実施していません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は1回実施しましたがコロナ感染拡大防止の為書面開催となり委員の方からはその都度意見書を頂いている	奇数月に包括職員や区長、民生委員、住職、家族代表に入居者状況や活動報告書を送付したり、感染状況をみながら開催した。メンバーからコロナ対応で労いの言葉があったり、包括職員の担当者変更の連絡があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点などについては市役所の方に直接お聞きし指導等を受けている	市保健福祉部主催の高齢者施設に係るコロナワクチン4回目接種の説明会に参加した。保健所から抗原検査キットの配布があった。生活保護受給者の手続きの相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	推進会議にて身体拘束について議題にし、年に4回の身体拘束適正化委員会を開催し身体拘束について理解し話し合っている	定期的に「身体拘束適正化委員会」を開催している。拘束となるスピーチロックやベッド柵などをしないための取り組みを話し合った。転倒防止の為のセンサー使用は、家族の了承を得ている。研修会でグレーゾーンについて皆で話し合った。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者と関わる中で困ったり疑問に思うことはその都度職員間で相談や報告することで虐待の防止に努めている	身体拘束適正化委員会では、虐待についても話し合っている。介護拒否がある方には時間をずらして声がけをしたり、相性の良い職員が対応するなどの工夫をしている。管理者は、いつでも話がしやすい環境作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得のための研修には参加し支援しているが現在コロナ感染予防の為外部研修で学ぶ機会がなく活用できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を基に契約時には説明を行い同意を得、又内容に変更が生じた場合には再度説明しご理解を頂いている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時状況を伝え家族の意見や要望を聞きそれらを運営に反映させている。また推進委員から頂いた意見を反映するように努めている	面会や通院時に意見や要望を聞いている。家族から「一緒にお通夜に行きたい」との要望があり、長時間にならないよう等の条件で応じた。家族から衣替えや嗜好品等が届けられる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を職員に聞き、出してもらい職員会議等で確認し反映させている	管理者は、いつでも相談ができる協力関係を築いている。職員から要望があった掃除機や洗濯機の買い替え等に随時対応している。ソフト作成は、希望を聞き可能な限り反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や成果を把握し、向上心を持つるように研修などに参加できる環境作りを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議での内部研修や資格取得の為の研修などに参加し支援を行っている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為現在は同業者との交流は自粛しているが状況が落ち着いたら交流したいと思います	同法人居宅介護支援の職員とは、コロナ感染状況等、随時連絡を取り合っている。調剤薬局の薬剤師には、入居者の投薬方法などの相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に感じない為にも困った事等があれば職員間で情報を共有し声掛けなどを行い安心して過ごせるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に家族等の要望や困っていることなどを聞き出し安心して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が何を必要とし、望まれているかを判断して必要な支援を行い対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を活かし家事などを一緒にやり暮らしを共にする関係を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人を支えていく関係を築きながら利用者・家族・職員間で信頼関係を築いている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所を本人や家族から教えて頂き関係が途切れないよう努めているが現在はコロナ感染予防の為窓越しの面会や外出の自粛となっている	家族や孫、友人との窓越し面会を予約なし時間制限なしで行っている。石巻で馴染みの日和山に花見や須江地域の桜並木を見に行った。ユニット間の交流で新しい馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流ができるよう、ホームでの行事やレクリエーションに参加して頂き孤立しないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際は主治医と相談しながら医療機関への情報提供や必要とする各機関への連絡や調整を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を日常の会話で聞き出したり、困難な場合は家族と相談し、思いを汲み取れるように努めている	普段の生活の中で、入居者の気持ちに寄り添い、話を聞くよう心掛けている。意思表示が困難な方とは、ジェスチャーをしながらコミュニケーションをとっている。趣味の編み物が続けられるよう、毛糸を提供する事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から趣味や生活状況を聞き出し、ホームでの生活に反映できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の残存能力や身体状態を把握できることはご自身で行って頂くように努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医意見等の話し合いにより現状に即した介護計画を作成し、状況が変化した場合は随時見直しを行っている	家族や本人、医師、担当職員から要望や意見を聞き、3ヵ月毎に計画書を作成している。家族の「皆と楽しく過ごして欲しい」の意向に、会話とレクリエーション参加をプランに入れ、活動量を維持出来る事を目標にした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活について毎日個々に記録し、毎日の申送りや職員会議にて話し合いの場を設け現状に即した介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や必要なことは何かを常に意識し支援することでその都度職員間で話し合いそこから柔軟な支援ができるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為地域や保育園・小中学校との交流を自粛しているが、保育園に畑を貸すことで園児がサツマイモを育てにきてくれる為楽しみにされている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて主治医に相談したり利用者や家族が希望する医療機関への受診をだせるよう支援している	全員が月1回、協力医の訪問診療を利用している。循環器科や精神科の専門医への通院は、家族が同行している。入居者の体調変化時は、看護職員や協力医の意見を貰い対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に看護職員に状況を伝えたり相談し、看護職員により主治医と連帯を図りながら迅速な対応ができるようしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については家族と主治医と話し合い決定している。入院中は医療連携室の相談員と相談し状況の把握を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて主治医と家族の話し合いにて家族の意向を尊重し事業所と主治医が一体となりチームケアに取り組んでいる	入居時に、看取りや医療行為が出来ない事等を説明している。状態に変化が見られた時は、医師や職員から説明があり、家族との話し合いの中で早めに方向性を図っている。看取りのマニュアルはあるが、重度化に伴う意思確認書が無い。	県のガイドラインに基づいて、重度化にともなう意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明を行って頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員の指導の下、応急処置や内部研修を行っている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民も参加の消防立ち合いの年2回の災害対策はコロナ感染防止のためホーム内での避難経路の確認を行っている。	年2回、夜間想定を含む訓練を行っている。地域住民に見守りを依頼している。県保健福祉部長寿社会政策課主催の「宮城県原子力防災訓練」に参加した。避難時の受入れ施設(白石方面)との連絡が主であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援する際は一人一人の自尊心を傷付けぬよう相手の立場に立った対応や口調を心掛け、敬う気持ちを持ち対応することを心掛けている	呼び方は基本「さん」付けだが、本人の希望で「ちゃん」で呼ぶこともある。目線を合わせ、不快にさせない言葉かけを意識している。各居室前に名前と花の名前の札があり、居室がわかり易いよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすい雰囲気を作りコミュニケーションをとったり本人や家族の希望を聞き実現できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大まかには決まっているが起床時間・入浴時間など利用者の希望する時間に合わせ支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等については好みを本人や家族に聞き出し本人が満足できるよう努めている。また本人が希望された時訪問理容を利用している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の盛り付けや食器吹きなどをしたり、セレクトメニューとして利用者の要望や旬の食材を使い食事を提供している	献立は職員が入居者の好みや季節の食材を取り入れ作成している。ランチバイキングやそうめんバイキングをし、自分の食べたい物を選べる行事食がある。テイクアウトで新年会の会席弁当、敬老会の寿司がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事摂取量や、1日の水分摂取量を記録し体調管理を行うよう努めている。また個人の状態に合わせ、主治医の意見を聞きながら食事形態や量を提供し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにより自立や一部(全)介助により口腔ケアを行っている。また毎日口腔体操を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録することで排泄のパターンの把握や、声かけや誘導を利用者一人一人の状況に合わせて可能な限り自立できるよう支援している	水分摂取量や排尿回数、排便周期は「申し送り事項」で把握している。時間や入居者のそわそわした様子を見て、トイレ誘導をしている。夜間はセンサーが鳴ったら、トイレの照明をつけて明るくし安全に誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況を記録し、おやつに乳製品を提供したり毎日系運動を促し参加して頂いている。排便のコントロールが困難な利用者は主治医に相談し下剤等を服用し便秘の改善に努めている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前後にはバイタル測定を行い、週2回の入浴を支援している。入浴を拒む利用者には時間帯を変えたり声かけに工夫し対応している	週2回午前中の中の入浴を基本としているが、入居者の希望に応じた時間、同性介助等希望に応じて支援している。脱衣所ではファンヒーターを使用し適温にしている。乾燥肌用の入浴剤を使用するなどの工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態によってはエアーマットを使用して頂き、良眠できるよう室温などを定期的に巡回することで確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬の名称や目的などを写真付きのリストを作成し常に確認することで飲み忘れ防止などに努めている。また薬の変更等があった場合は経過観察し場合によっては主治医に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の食べたいものやしたいことの要望を聞き出し楽しんで過ごせるよう努めている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ感染予防の為外出は市内のドライブレクのみである。コロナが落ち着いたら以前のように個人の希望を聞きとった食事レクなどを実施したい	敷地内の畑で野菜の苗を植えて、草取りや水やり、収穫を楽しんでいる。収穫したさつまいもを外で焼き芋にして食べたり、玄関ホールのベンチに腰を掛けて、おしゃべりをしながら日向ぼっこをし、気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に金庫で管理し、使用した際はお小遣い長に記入し定期的に家族に確認して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話の要望があった際はご家族に了承を得通話している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾などの工夫を行っている。また居心地よく過ごせるよう室温や照明などを調整している。	リビングの掃除は職員がしている。2時間毎に窓を開放し換気をしている。エアコンで室温を24度に保ち、加湿器で乾燥を防いでいる。季節毎のちぎり絵作品が飾ってある。体操をしたり、カラオケで演歌を歌って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では皆で歌を歌ったりレクなど行ったりして過ごして頂いている。本人の要望により自室で過ごせるよう支援している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	立ち上がりの困難な方には手すりのしっかりしたベットを使用したり、居室には家族の写真を飾ったり個々が居心地よく過ごせるように工夫している	居室には、エアコンや電動ベッド、カーテン、テレビ(無料貸出)がある。使い慣れた布団や枕、家族の写真や位牌、遺影を持ち込み自分らしい部屋になっている。体調変化や気分でのベッドの配置換えをする事がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に応じて手引き歩行やカート・杖・自走式車いすを使用し頂き自立した生活が送れるよう工夫している。またホーム内はバリアフリーで手すりもついている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470201054		
法人名	有限会社 量石介護センター		
事業所名	グループホーム親孝行 ユニット名 B棟		
所在地	宮城県石巻市須江字沢尻55番地		
自己評価作成日	令和4年11月	21日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和4年12月	22日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が健康で安心して過ごせるように日々体調観察を行い、変化があるときは主治医に相談し指示を仰ぎ対応しています。
 コロナ感染拡大防止のため例年行われていた地域の小中学校との交流は自粛しているが今年はホームの畑を保育園に使うて頂き園児たちがサツマイモを育ててくれました。また毎月季節ごとの行事を行い利用者様に楽しんでいただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは石巻港インターから5分ほどの須江工業団地に通じる街道にあり、周辺には大型食料加工工場や河南中央公園等が点在する田園地帯にある。ユニットはY棟(Yellow)B棟(Blue)でカーテンの色で識別している。目標達成に掲げた「きつき」の実践は、日々の観察で思いを汲み取り、職員間で情報を共有し個々にあった対応を実践に繋げている。近くに母体である法人があり、観光業を通じて地域住民との交流がある。散歩や外出の際挨拶を交わし地域との繋がりを大切にしている。入居者は毎月の行事で季節を感じ、日々の生活行う体操やゲーム、おしゃべりを楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム親孝行)「ユニット名 B棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目標に【きづき】を掲げ、事業所理念をリビングや玄関に掲示常に目の届くようにし皆が実践できるようにしています	経営理念や地域理念を基に、ユニット目標「きづき」があり会議で継続とした。玄関やリビング、ユニットに掲示している。日々のケアの中で状況変化に早めに気付き、職員間で共有し個々にあった対応をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは地域のお祭りや奉仕活動などの交流があったがはコロナ感染予防の為中止でした。今年は保育園へホームの畑を使用してもらい園児たちがさつま芋を作りました	区長が毎月石巻市報を持参してくれる。その際に町内の祭りや草刈りが中止になった等の情報を得ている。さつま芋の成長を見に来た保育園児と手を振って挨拶をし交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで参加していた地域高齢者の集まりはコロナ感染予防の為実施していません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は1回実施しましたがコロナ感染拡大防止の為書面開催となり委員の方からはその都度意見書を頂いている	奇数月に包括職員や区長、民生委員、住職、家族代表に入居者状況や活動報告書を送付したり、感染状況をみながら開催した。メンバーからコロナ対応で労いの言葉があったり、包括職員の担当者変更の連絡があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点などについては市役所の方に直接お聞きし指導等を受けている	市保健福祉部主催の高齢者施設に係るコロナワクチン4回目接種の説明会に参加した。保健所から抗原検査キットの配布があった。生活保護受給者の手続きの相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	推進会議にて身体拘束について議題にし、年に4回の身体拘束適正化委員会を開催し身体拘束について理解話し合っている	定期的に「身体拘束適正化委員会」を開催している。拘束となるスピーチロックやベッド柵などをしないための取り組みを話し合った。転倒防止の為のセンサー使用は、家族の了承を得ている。研修会でグレーゾーンについて皆で話し合った。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者と関わる中で困ったり疑問に思うことはその都度職員間で相談や報告することで虐待の防止に努めている	身体拘束適正化委員会では、虐待についても話し合っている。介護拒否がある方には時間をずらして声がけをしたり、相性の良い職員が対応するなどの工夫をしている。管理者は、いつでも話がし易い環境作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得のための研修には参加し支援しているが現在コロナ感染予防の為外部研修で学ぶ機会がなく活用できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を基に契約時には説明を行い同意を得、又内容に変更が生じた場合には再度説明しご理解を頂いている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時状況を伝え家族の意見や要望を聞きそれらを運営に反映させている。また推進委員から頂いた意見を反映するように努めている	面会や通院時に意見や要望を聞いている。家族から「一緒にお通夜に行きたい」との要望があり、長時間にならないよう等の条件で応じた。家族から衣替えや嗜好品等が届けられる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を職員に聞き、出してもらい職員会議等で確認し反映させている	管理者は、いつでも相談ができる協力関係を築いている。職員から要望があった掃除機や洗濯機の買い替え等に随時対応している。ソフト作成は、希望を聞き可能な限り反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や成果を把握し、向上心を持てるように研修などに参加できる環境作りを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議での内部研修や資格取得の為の研修などに参加し支援を行っている		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為現在は同業者との交流は自粛しているが状況が落ち着いたら交流したいと思います	同法人居宅介護支援の職員とは、コロナ感染状況等、随時連絡を取り合っている。調剤薬局の薬剤師には、入居者の投薬方法などの相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に感じない為にも困った事等があれば職員間で情報を共有し声掛けなどを行い安心して過ごせるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に家族等の要望や困ってることなどを聞き出し安心して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が何を必要とし、望まれているかを判断して必要な支援を行い対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を活かし家事などを一緒にやり暮らしを共にする関係を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人を支えていく関係を築きながら利用者・家族・職員間で信頼関係を築いている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所を本人や家族から教えて頂き関係が途切れないよう努めているが現在はコロナ感染予防の為窓越しの面会や外出の自粛となっている	家族や孫、友人との窓越し面会を予約なし時間制限なしで行っている。石巻で馴染みの日和山に花見や須江地域の桜並木を見に行った。ユニット間の交流で新しい馴染みの関係も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流ができるよう、ホームでの行事やレクリエーションに参加して頂き孤立しないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際は主治医と相談しながら医療機関への情報提供や必要とする各機関への連絡や調整を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を日常の会話で聞き出したり、困難な場合は家族と相談し、思いを汲み取れるように努めている	普段の生活の中で、入居者の気持ちに寄り添い、話を聞くよう心掛けている。意思表示が困難な方とは、ジェスチャーをしながらコミュニケーションをとっている。趣味の編み物が続けられるよう、毛糸を提供する事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から趣味や生活状況を聞き出し、ホームでの生活に反映できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の残存能力や身体状態を把握できることはご自身で行って頂くように努めている		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医意見等の話し合いにより現状に即した介護計画を作成し、状況が変化した場合は随時見直しを行っている	家族や本人、医師、担当職員から要望や意見を聞き、3か月毎に計画書を作成している。家族の「皆と楽しく過ごして欲しい」の意向に、会話とレクリエーション参加をプランに入れ、活動量を維持出来る事を目標にした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活について毎日個々に記録し、毎日の送りや職員会議にて話し合いの場を設け現状に即した介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や必要なことは何かを常に意識し支援することでその都度職員間で話し合いそこから柔軟な支援ができるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為地域や保育園・小中学校との交流を自粛しているが、保育園に畑を貸すことで園児がサツマイモを育てにきてくれる為楽しみにされている		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて主治医に相談したり利用者や家族が希望する医療機関への受診をだできるよう支援している	全員が月1回、協力医の訪問診療を利用している。循環器科や精神科の専門医への通院は、家族が同行している。入居者の体調変化時は、看護職員や協力医の意見を貰い対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は常に看護職員に状況を伝えたり相談し、看護職員により主治医と連帯を図りながら迅速な対応ができるようしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院については家族と主治医と話し合い決定している。入院中は医療連携室の相談員と相談し状況の把握を行っている		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状に応じて主治医と家族の話し合いにて家族の意向を尊重し事業所と主治医が一体となりチームケアに取り組んでいる	入居時に、看取りや医療行為が出来ない事等を説明している。状態に変化が見られた時は、医師や職員から説明があり、家族との話し合いの中で早めに方向性を図っている。看取りのマニュアルはあるが、重度化に伴う意思確認書が無い。	県のガイドラインに基づいて、重度化にともなう意思確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明を行って頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員の指導の下、応急処置や内部研修を行っている		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民も参加の消防立ち合いの年2回の災害対策はコロナ感染防止のためホーム内での避難経路の確認を行っている。	年2回、夜間想定を含む訓練を行っている。地域住民に見守りを依頼している。県保健福祉部長寿社会政策課主催の「宮城県原子力防災訓練」に参加した。避難時の受入れ施設(白石方面)との連絡が主であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援する際は一人一人の自尊心を傷付けぬよう相手の立場に立った対応や口調を心掛け、敬う気持ちを持ち対応することを心掛けている	呼び方は基本「さん」付けだが、本人の希望で「ちゃん」で呼ぶこともある。目線を合わせ、不快にさせない言葉かけを意識している。各居室前に名前と花の名前の札があり、居室がわかり易いよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が話しやすい雰囲気を作りコミュニケーションをとったり本人や家族の希望を聞き実現できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは大まかには決まっているが起床時間・入浴時間など利用者の希望する時間に合わせ支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等については好みを本人や家族に聞き出し本人が満足できるよう努めている。また本人が希望された時訪問理容を利用している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の盛り付けや食器吹きなどをしたり、セレクトメニューとして利用者の要望や旬の食材を使い食事を提供している	献立は職員が入居者の好みや季節の食材を取り入れ作成している。ランチバイキングやそうめんバイキングをし、自分の食べたい物を選べる行事食がある。テイクアウトで新年会の会席弁当、敬老会の寿司がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事摂取量や、1日の水分摂取量を記録し体調管理を行うよう努めている。また個人の状態に合わせ、主治医の意見を聞きながら食事形態や量を提供し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにより自立や一部(全)介助により口腔ケアを行っている。また毎日口腔体操を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録することで排泄のパターンの把握や、声かけや誘導を利用者一人一人の状況に合わせて可能な限り自立できるよう支援している	水分摂取量や排尿回数、排便周期は「申し送り事項」で把握している。時間や入居者のそわそわした様子を見て、トイレ誘導をしている。夜間はセンサーが鳴ったら、トイレの照明をつけて明るくし安全に誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況を記録し、おやつに乳製品を提供したり毎日系運動を促し参加して頂いている。排便のコントロールが困難な利用者は主治医に相談し下剤等を服用し便秘の改善に努めている		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前後にはバイタル測定を行い、週2回の入浴を支援している。入浴を拒む利用者には時間帯を変えたり声かけに工夫し対応している	週2回午前中の中の入浴を基本としているが、入居者の希望に応じた時間、同性介助等希望に応じて支援している。脱衣所ではファンヒーターを使用し適温にしている。乾燥肌用の入浴剤を使用するなどの工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態によってはエアーマットを使用して頂き、良眠できるよう室温などを定期的に巡回することで確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬の名称や目的などを写真付きのリストを作成し常に確認することで飲み忘れ防止などに努めている。また薬の変更等があった場合は経過観察し場合によっては主治医に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の食べたいものやしたいことの要望を聞き出し楽しんで過ごせるよう努めている		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ感染予防の為外出は市内のドライブレクのみである。コロナが落ち着いたら以前のように個人の希望を聞きとった食事レクなどを実施したい	敷地内の畑で野菜の苗を植えて、草取りや水やり、収穫を楽しんでいる。収穫したさつまいもを外で焼き芋にして食べたり、玄関ホールのベンチに腰を掛けて、おしゃべりをしながら日向ぼっこをし、気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に金庫で管理し、使用した際はお小遣い長に記入し定期的に家族に確認して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの電話の要望があった際はご家族に了承を得通話している		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾などの工夫を行っている。また居心地よく過ごせるよう室温や照明などを調整している。	リビングの掃除は職員がしている。2時間毎に窓を開放し換気をしている。エアコンで室温を24度に保ち、加湿器で乾燥を防いでいる。季節毎のちぎり絵作品が飾ってある。体操をしたり、カラオケで演歌を歌って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では皆で歌を歌ったりレクなど行ったりして過ごして頂いている。本人の要望により自室で過ごせるよう支援している		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	立ち上がりの困難な方には手すりのしっかりしたベットを使用して頂いたり、居室には家族の写真を飾ったり個々が居心地よく過ごせるように工夫している	居室には、エアコンや電動ベッド、カーテン、テレビ(無料貸出)がある。使い慣れた布団や枕、家族の写真や位牌、遺影を持ち込み自分らしい部屋になっている。体調変化や気分でのベッドの配置換えをする事がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に応じて手引き歩行やカート・杖・自走式車いすを使用して頂き自立した生活が送れるよう工夫している。またホーム内はバリアフリーで手すりもついている		